

相変わらず城食堂しか営業していない。昼食抜きにするほどの毛嫌いではないので、ともかく入った。内部の感じは予想よりも良い。ウェーターがマジャール語、ドイツ語、英語併記お品書きを渡してくれる。

スープはなしで、鹿肉のローストにコロッケだけをメインにし、ハウスインの赤をグラスで貰う。ワインを飲みながら待っていると20分ほどで鹿肉が登場した。ローストと云うより煮

込みみたいな感じを受けたものの、食べてみれば美味しい。しかしそれ以上に感心したのがメニューの一部とは知らなかったミックス・ピクルスサラダで、これは見た目を裏切る味わいだ。特に若干甘味のある漬かったキャベツが美味かった。これもザウアークラウトの一種かもしれないが、かつて経験したことのない味だった。

1時間弱の食事はこの日もカプチーノで終わる。勘定は鹿肉2,300Ft(845円)、ワイン200cc 3杯1,500Ft(551円)、カプチーノ350Ft(129円)、合計4,150Ft(1,524円)だった。

しばらくコシュート・ラヨシュ通りを散策し、愛想の良い犬と交流したりする。最後に食品店により、ウォッカ1,943Ft(714円)とやつまみ用のハム207Ft(76円)を購入。後は真っ直ぐ宿へ帰った。

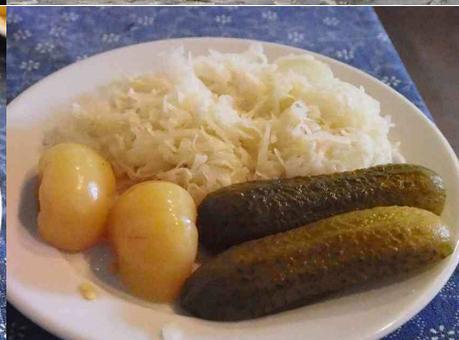
インターネットのブッキングコムでブクレシュティの宿を予約した。街の中心部に位置する四つ星ホテルで、(当てにはならないが)宿泊者の評価も高かった。二泊の料金117€は四つ星を考えれば安いような気がする。ルーマニアの物価が安いと云うことならば、旅人としては有り難い。

夕方になり携帯電話で管理人のアダムと支払いに関して打ち合わせる。結局翌朝支払うことになった。

8. ブダペスト(2)

フォアグラ缶詰

明るる14日は晴天が戻ってきた。前日と同様8時に食堂で待っているとアダムがバスケットを下げ姿を現した。勘定書は後で寝室の方へ持ってくるそうだ。前日にインターネットでトゥガリ・ゲストハウスのホームページを閲覧し、彼の姓が Kiss と知り、面白いと思った。そこでこのことを尋ねると、マジャール語では Kiss は小さいを意味するそうだ。ちなみに午後になって、ブダペスト東駅のコインロッカー種別表示にこの語を発見しなるほどと思う。



上左: 店内。上右: 来店したときは出されていなかった路上看板。
下左: 鹿肉のローストとコロッケ。下右: ピクルスサラダ。



ツマミのハム。



バス停からトゥガリ・ゲストハウスのあるラーコーツィ通りを眺める。

朝食後しばらくしてアダムが手書きの számla (勘定書)を持ってきた。二泊分が17,000Ft(6,244円)で、金額は前日聞いた通りだった。クレジットカードは扱わないため、手持ちの現金がほぼ無くなる。ハンガリー出国時に現金が無くなるよう調整してきたつもりが、思いのほか現金支払いが多かったようだ。バス停そばにCD機があるのは有り難かった。

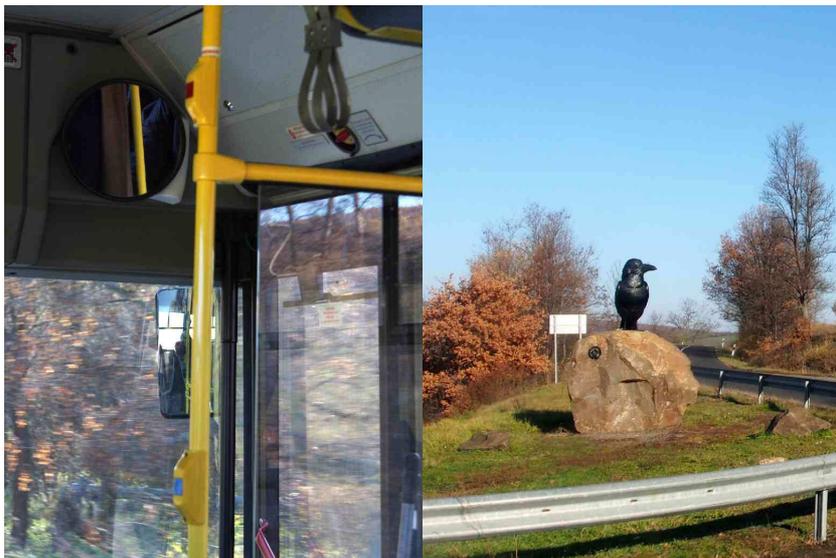
出発予定は9時半なのでまだだいぶ時間がある。鍵をどうするか訊くと、アダムは、「出発時に中に置いておけばよい。」と云う。戸締まりなどをさほど気にしなくて良い長閑な村なのだろう。彼はそのまま出勤したようだ。

村からブダペスト行きのバスは、早朝に一本だけ直通便があるけれど、後はセージンで乗り換えになる。10時発、10時25分にセージン着で、そこで2時間7分待ち、12時32分発、2時30分ブダペスト着を利用するつもりだ。

予定通りに出発し、CD機で10,000Ft(3,673円)キャッシングした。今度こそこれで出国までの現金は足りるだろう。早過ぎるから待ち人のいないバス停で佇んでいると、近所で放し飼いにしている犬が遊んでくれた。そのうち地元の人も次第にその数を増やし、5人ほどになったとき定刻通りのバスが到着する。料金370Ft(136円)で、細かく停車しては地元の人が乗降する。

セージンに着いたのも定刻だった。ハンガリーにおける公共交通機関の運行の正確さは、これまでの経験からすると素晴らしく日本を凌駕していると云えよう。そんなことを考えながら待合室に入り、此处でゆっくり待つつもりだった。

しかし繰り返される発車案内のアナウンスは、どうやらブダペスト行きらしい。慌てて1番乗り場に行くと、それらしいバスの前には10人くらいの行列。一応バス前方の表示も見たが、改めて運転手に確認し乗り込む。料金は1860Ft(683円)。このバスは10時32分発の便で、インターネットのバス案内システムは乗り換え時間が短すぎると判断したようだ。



上左: 短距離路線バスの車内。柱に取り付けられた空色の押しボタンで降車を知らせる。ちなみに今気付いたが上の方にある赤ボタンは緊急停止用なのだろうか。上右: ホッローケーのシンボルであるカラスと石。「魔女がカラスたちに石を運ばせた」という伝説があり、カラス(Holló)石(kő)が村の名前となる。下: セージンのバスステーション。

ともかく慌ただしく乗り込んだ。バス案内によればホッローケー、ブダペストの直行便は一昨日利用したシュタディオン・バスターミナル発着だが、乗り継ぎ便はウーイペシュト・ヴァーロシュカブに着く。それがブダペストのどこなのかさっぱり判らなかったので、それなりにスリルは味わえた。もちろん2時間の先行があるから、どこについても何とかなる安心感はあったのだが。

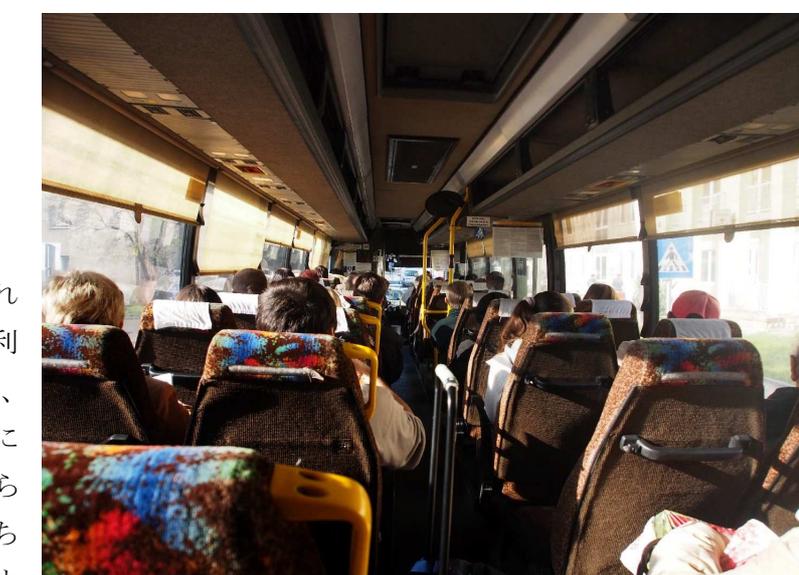
明媚な風景の中、晴天も有り難かったが、席が通路側だったため撮影はやりにくかった。しかし一便後のバスを利用すべきだったと思うほどの景色でもない。ともかく2時間のバス旅を楽しみブダペスト市内に入る。

今回も定時到着だ。ハンガリーに交通渋滞がないからとはいえ、バスが定時を守るのに、途中で時間調整の停車をしたわけでもなく、無理にスピードを上げ(下げ)たりする様子もなかった。神業に近い。

バスステーションで降りたのは良いが、どちらへ行くべきかさっぱり判らない。それでも大勢が進む方向を何とか見定め、それについて行くと地下鉄駅に達した。M3号線で、始発駅の次ぎ、これを利用して(国鉄)東駅にはデアーク広場駅で乗り換えて行くことができる。

切符売り場を見付けるのに手間取り、他の客はとっくに去って閑散としている窓口に向き着いた。切符を買おうとすると、突然そばにいたオバサンに声を掛けられる。未だに何が起こったか十分に把握できていないが、私なりに理解したいきさつはこんなことだった。

「地下鉄に乗るのならば切符を上げる。」と云う。余った切符ならば買おうとすると、「身障者に無料で配布された切符だから、お金はいらない。」とのことで、ロフストランド杖(洋式松葉杖)が傍らにあったから足の障害だろう。そのような切符を健常者が使用すれば不法行為になりそうだ。それでも相手の善意を突っぱねることも躊躇され、か



上:セージンから乗ったバスの車内。下:車窓風景。平坦な畑が続いた。

と云って詳細を(それも無礼にならないように)聞きただす英語力もなかった。すっきりしないまま、しかし出来るだけ心を入れて礼を述べ切符を貰う。



地下鉄ウーイペシュト・ヴァーロシュカブ(新ペスト城門)駅。

LUGGAGE STORAGE USAGE

STORAGE OF THE LUGGAGE

- ①  Put the luggage into the storage.
 - ②  Insert the right amount:
HUF 400 for 24 hours, using the small storage
HUF 600 for 24 hours, using the large storage
Use only coins in value of 100, and 200 Hungarian forint (HUF). No refund is possible! Checking the sum on the display, insert the coins slowly one after the other in the slot.
 - ③  Lock the storage. After locking the storage you can open it up to three minutes without paying the basic fee again. Over three minutes you have to repeat the payment of the basic fee. Over 24 hours, the further storage of the luggage is subject to charges.
 - ④  Take the key with you. (Take care of it!) If you lose the key an amount of HUF 4500 will be charged.
- COLLECTING OF THE LUGGAGE**
- ⑤  Insert the key in the lock and turn it to the right until it will stop. If the storage period exceeds the basic time of 24 hours, it is necessary to pay an additional sum which will be shown on the display of the storage.
 - ⑥  Remove the luggage.



ブダペストの地下鉄に乗るのも5回目なのでだいぶ余裕が出てきた。デアーク広場駅で乗り換えてバロス広場駅で下車、(国鉄)東駅構内へ出る。

キャリーカートを引っ張っての移動は何かと不自由、不便なので、まず手荷物預かりを探した。しかし有人預かりはなく、コインロッカーのみだ。機械に対する不信感と、操作方法を誤るかもしれないという自分自身への不信感で、海外ではなるべく

避けている。しかし夜行列車に乗るまでの6時間を考えると、コインロッカー使用はやむないこととなった。幸い英文の利用説明は判りやすい。小型 (kiss) ロッカー使用料金の400Ft(147円)は硬貨の手持ちがなかったが、同じスペースに両替機が設置されていたのでこれも解決する。

身軽になったところで国際線切符売り場兼案内所へ行き、国境通過に関する状況を訊く。飲酒後に就寝するつもりなので、出入国審査の実体を知りたかったが、列車や切符などと無関係なことを尋ねることに無理があった。今晚の飲酒は控えめにした方が良さそうだ。

時刻は1時半を回ったので昼食にする。新たな店を開拓する気にもならず、以前二回食事した食堂クラッスツへ向かった。クリアフォルダーから取り出しておいたブダペスト市街平面図を、カメラバッグの前ポケットに挿して参照しながら進む。客観的に云えば単純至極な道筋で、迷うことなどあり得ないのだけれど。

3キロ弱の道を40分弱で歩き、着いたときは2時を回っていた。昼食には遅い時刻のせいか店内は閑散としている。お品書きは以前と同じものだったので、あまり迷わず、若鶏の冷ドンブルーにした。ワインはコニャーリ・サラチェン(赤)をグラスで頼む。多分初めて聞く銘柄で、調べたところハンガリー南西部のバラトン湖地方ワイナリーでメルロー種のような。

ワインを飲みながら待つこと10分で、若鶏の冷ドンブルーが登場した。淡泊な若鶏肉にチーズとハムが絡んで佳い味わいだ。下拵えも面倒そうだし、焼き具合も難しいだろうからとても自分でやる気にはならない。正にレストランで楽しむべきメニューだと思う。



若鶏の冷ドンブルー。下は断面の拡大画像。

いつも通りカップチーノで終わりにして、勘定はコルドンブルー 2,590Ft(951円)、ワイン200cc4杯 2,380Ft(874円)、カップチーノ 390Ft(143円)。

店を出るとまだ3時10分なので、寝台車に乗車できるのが6時半頃と想定すれば、あと3時間強を潰さなければならない。そこで土産物の購入をすることにした。既に求めたものはジュールの藍染め製品ぐらいで、ホッローケーのカチューシャは土産に出来るような代物ではない。

それでは何をブダペストで求めるか。ハンガリーの名産品としてはフォアグラの缶詰がある。これ以外だとトカイワインなどは有名だが重いから失格、刺繍にも良いものがあるものの家に飾るところもなければ差し上げる相手もない。パプリカは名産品ではあるが単価的に安い、カバンに詰め込んで旅していると粉々になってしまいそうだ。フォアグラだと日持ちするし、友人などと一緒に飲むときに、話のタネにしながら摘めば当たり障りなく片付く。そんなことでこれにしようと思つて中央市場を目指して移動する。

途中、大道芸人の犬と遊んだり、常日頃よりいっそうのんびり歩いたので、中央市場に着いたのは4時を回っていた。

この市場が一番混雑する時間帯を知らないけれど、相変わらず人は多い。しかもかなり観光客らしい姿が目立つのだ。

フォアグラの缶詰はざっと見た限りではどの店でも同じ価格らしい。140g入ったものを5箇 25,000Ft(9,182円)で購入した。後から考えると、時間もたっぷりあったから街のスーパーマーケットを先にチェックするべきだったようだ。



街頭スナップ。上左：前輪が二輪のオートバイ。私は日本で見たことがないがあるらしい。上右：歩行者用信号。下左：輪タク。下右：マンホールの蓋。ブダペスト電力会社のもの。



ヴァーツィ通りを中央市場へ向かって歩いていると犬を連れて大道芸人(ミュージシャン)がいた。小銭を置いて犬と遊ばせて貰う。彼が、「写真を撮ってやる。」と云うので、私としては珍しい自写像が出来た。



上：焼き栗はヨーロッパで秋の風物詩と云えるかもしれない。下：ドネルケバブ



中央市場。屋根はやはりジョルナイトイルらしい。



八百屋の店頭。茄子が1キロ398Ft(146円)、蕪が1キロ280Ft(103円)。

寝台列車

買い物は終わったが、時間潰しを兼ね場内を見物する。市場は三層からなり、2階が衣料品や観光土産と軽食が摂れるようなスタンド、1階がフォアグラの缶詰を初めハム、ソーセージ、肉などが並ぶ肉屋とパプリカなどの乾物屋が多く、パン屋もちらほらある。地下は魚とピクルスなどだった。この市場が建設された当時は、舟運による商品はドナウ河から地下水路で搬入したそうだから、魚売場が地下なのは都合が良かっただろう。

市場見物を終えて東駅へ向かった。コインロッカーから荷物を出して行動が不自由になる前に、寝台列車に備えた買い物を済ませることにした。

まず酒と水は必須だ。東駅には何か所か売店があるので、まずこれを覗いてみた。幸いなことに両方ともあり早速購入して支払いをカードで済ませようとした。ところが地下鉄の切符でさえカードで買えるのに、売店では意外なことにカードを扱っていないという。ハンガリー出国時にキャッシュがほとんどなくなるように心掛けてきたので、手持ちでは足りないしさらに追加キャッシングもしたくない。

そんなことで此処での買い物はご破算にし、先ほど駅の手前100メートルほどのところで見かけた小型スーパーマーケットに向かった。こちらは問題なくカードで買い物ができてウォッカ700cc 2,359Ft(866円)、ミネラルウォーター1.5ℓ 69Ft(25円)を確保。

次いで夜食兼ツマミ用にハンバーガーを探す。駅周辺にはマクドナルドとバーガーキングがある。後者でバーガーのワッパーを860Ft(316円)で一つ入手。ちなみにワッパー(Whopper:どでかいもの)はバーガーキングの世界共通メニューなのか、少なくとも日本ではこの名称で780円に値付けされている。

買い物はこれで終わりにしてコインロッカーからカバンなどを取り出した。先ほど見かけた駅構内のインターネットカフェへ行く。文字通りカフェの隅に数台のPCが置いてあるところで、管理者ら

しいネエサンに自分のPCでインターネットにアクセスできるか訊いた。無愛想な対応だったがそれでも接続することは出来、メールをチェックする。

友人からのメールやフェイスブックへの書き込みに対する反応を知らせるものなど10通ほど受信している。ちなみにフェイスブックは日頃だとざっと読む程度で、話題がないから書き込みはしない。しかし旅先だと風景や食べたものの画像を添えて近況を知らせたくなり、これに結構反応があるので楽しめる。

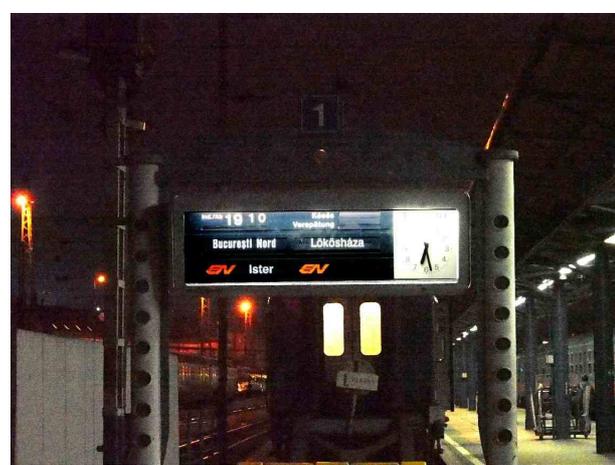
HELYJEGY RESERVIERUNG		1 HÁLÓHELY/BETTPL	
CIV 1155			
Dátum nap.hó	Indulási állomás -> Célállomás	Dátum nap.hó	Osztály Klasse
14.11 * 19.10 *	BUDAPEST KELETI -> BUCURESTI N *	15.11 * 11.00 *	*
Vonat: 473 EN Kocsi 422 Helysz. 12			
1 SINGLE			
Normalpreis		Ar: HUF ***27930,00	
430010081991		Árf: 285,00 HUF/EUR	
N° 1027220100107		ÁFAtv. 105%	
		09 10017 12.11.12 12:45	
CIV 1155	N° 916799	Különleges adatok Indicaciones especiales Besondere Angaben	
Sör: 01	MÁV-START Zrt. 1087 Bp., Könyves K. ut. 94-96.	MÁV-START Zrt. Budapest-Keleti	
Fizetés módja Mode de paiement Zahlungsart	Adószám: 13834492-2-44 ÁFA tv. 105%	2012.11.12 10017-09 Ausgabestempel	
de/von	Oda/Aller/Hinfahrt	Osztl. de/von	Viszsa/Retour/Rückfahrt
á/nach	BUDAPEST -101	Kl. á/nach	-101
á/nach	BUCURESTI NORD -1g	1 á/nach	-1g
á/nach	-1g	2 á/nach	-1g
via	1155 Székelykeresztény Brassó	1155 Aranygyér Sighisoara	
Kétszemélyes Régió Emlék		HUF 24000 EUR 84,2	

寝台列車の寝台券(縮尺:1/2)。上がコンピュータが発券したもので27,930Ft(10,258円)だが、なぜか下の手書きで24,000Ft(8,815円)に直されている。これ以外に乗車料金27,930. Ft(10,258円)。

インターネット・アクセスを終えると6時20分だった。料金は30分で250Ft(92円)。寝台列車が発車するホームへ行ってみると、既に入線して乗車も可能らしい。しかし出発まで時間もたっぷりなので、先頭まで歩いて行き機関車を撮影する。

撮影後に数両戻って422号車の12番室へ行く。外観や内装は共に古びているものの、清潔だし快適に一晩過ごせそう。ついでに無人でドアの開いていた13号室を覗いてみた。こちらはトイレ付きらしい。12号室との隔壁にドアがあり、家族連れなどが利用すれば、廊下へ出ないで行き来が出来る。

定刻に発車し、しばらくすると女性車掌が検札に来た。なぜか切符一式とパスポートを持ち去る。ともかく検札が済んだので衣類を脱ぎ、寛いで晩酌を始めた。10時半にブダペストから100キロのところにあるソルノクに停車。ホームの様子を車窓から撮影し、酔いも回ってきたので就寝する。夢うつつの内に数回の停車を繰り返したようだ。



上:ホームの案内表示。その背後に寝台列車の後部が見えている。下:列車ごとの表示。この422号車を利用した。列車番号は473なのに、この472は何を意味するのか？



上左:寝台列車。上右:利用した個室。同じ車輛でトイレ付き個室もあった。流しが設備されているのが一等の印だろうか。下左:酷使の結果なのが無残に曲がったハンガーの吊り下げ金具。下中:左と同じハンガーだが、粘着テープで修理されている。なぜこれほどまでして使うのか？ 下右:ワッパー・バーガー。